

JAグループ神奈川

<http://www.jakanagawa.gr.jp/>

バックナンバーはこちらから



*今号は、オンラインによるリモート取材で記事をまとめました。

JAグループ神奈川は、
神奈川のアスリートを応援しています。

十種競技とは、1000m、走り幅跳び、砲丸投げ、走り高跳び、400m、110m障害、円盤投げ、棒高跳、やり投、1500mを2日間で競う混成競技

強の称号だけは譲れない。

来春以降の所属先が未定の21歳にとって、最高のアピールの場とするためにも、学生最後の舞台・9月の日本インカレに向け、この夏は投てき種目の強化に充てる。

本インカレに向け、この夏は白い歯がこぼれた。

贈られると「おいしくて疲れが取れそうですね」と思わず「ぎゅっと、神奈川みかん」が内産の温州ミカン製ジュース

もできた。

2日間で10種目を戦い抜く競技は疲労度も激しいが、

「日本のトップ選手たちとの距離感を感じたかった」と社人たちに挑み、6位入賞を果たした。投てき種目では壁を痛感したものの、春から取り組んできた走り高跳びや全体で1位となった1500mなど、手応えを感じられた大会でもあった。「全体でもあと200点くらいは伸ばせたいと思う」と、さらなる伸びしろを自分の中に見いだすこともできた。

活躍の舞台を広げていった。武相高校で潜在能力が引き出され、3年の時に全国高校総体(八種競技)で準優勝。大学入学直後の2018年にはアジアジュニア選手権3位と、

「走る・飛ぶ・投げる」といった陸上選手としての全要素が求められる混成競技。究極の万能選手として優勝者に与えられる「キング・オブ・アスリート」の称号を、国士館大学4年の原口凜は追い求め続けている。

横浜市立高田中時代は1500mを得意としていた。最後の夏に全国中学大会の出場を逃したのを機に混成競技に転向し「多くの種目を一人で行なっていくのが、この競技の面白さ」と没頭していく。

「走る・飛ぶ・投げる」とい

た陸上選手としての全要素が

求められる混成競技。究極の

万能選手として優勝者に与え

られる「キング・オブ・アス

リート」の称号を、国士館大

学4年の原口凜は追い求め続

けている。

陸上・
十種競技



原口凜 (21)
* 横浜市出身

じゃ
いいJAん!

かながわ明日すリート 21